

Exhibitions Calendar 2021-2022

3月13日④ → 5月9日④
植松奎二
みえないものへ、触れる方法 — 直観



植松奎二《オマージュ フーコーの振り子》2019年 芦屋市立美術館での展示風景

植松奎二(1947-)は1969年より、彫刻、インスタレーション、写真、映像、パフォーマンスなど、多岐にわたる活動により、一貫して重力、引力といった見えない力の法則から世界の構造・存在・関係をよりあらわにしてきました。自身の身体を用いた空間の存在把握や、人と物体との関係性など、世界を知覚させる作品を数多く発表しています。本展では、新作のインスタレーション作品や70年代の写真作品を中心に約70点を展示。植松の作品を通して、この世界を新たに認識する方法を探っていきます。

5月29日④ → 8月29日④
スポーツ展
～芦屋・阪神間のスポーツの歴史と未来～

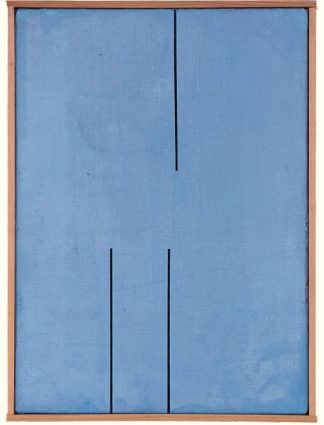


1964年東京オリンピック聖火トーチ

戦後まもない1948年、猿丸吉左衛門(吉雄)が、芦屋市長に就任。アスリートとして活躍し、「スポーツマン市長」として、現在における芦屋市の基礎を築いた実績もさることながら、現代でいう「生涯スポーツ」の先駆者として、老若男女スポーツに親しめる環境づくりを行いました。芦屋は、数多くのスポーツ競技において優秀な功績を収めた人物を輩出しています。2020年は、数々のスポーツイベントが中止・延期など苦難を経験しましたが、緊急事態宣言を経て、スポーツが再開された時、人々の希望として力になったことは記憶に新しいところです。いま一度、人々に希望を与える力を持つスポーツの歴史や魅力を振り返る展示を行います。

9月18日④ → 11月21日④

コレクション展(仮称)



金山明《WORK》1954年 ©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association

今年の春に開館30年目を迎えた当館は、美術コレクションの一つの軸として、1954年芦屋で結成された具体美術協会の作品を多数収蔵しています。1972年の解散まで延べ約60名の作家が在籍した具体は、戦後日本美術を牽引した前衛美術集団として、独創的で情熱あふれるパフォーマンスと絵画などでよく知られています。本展は、絵具の激しい質感や先駆的なパフォーマンスといった具体の文脈から少し離れ、金山明や菅野聖子、堀尾昭子などによる、幾何学的で静けさを湛えている作品を展覧します。

2021	3	植松奎二 みえないものへ、触れる方法 — 直観
日	月 火 水 木 金 土	スポーツ展 ～芦屋・阪神間のスポーツの歴史と未来～
	1 2 3 4 5 6	コレクション展(仮称)
7	8 9 10 11 12	村上三郎展(仮称)
14	15 16 17 18 19 20	第39回 芦屋市造形教育展
21	22 23 24 25 26 27	第66回 芦屋市展
28	29 30 31	

4	5	6
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
	1 2 3	1
4	5 6 7 8 9 10	2 3 4 5 6 7 8
11	12 13 14 15 16 17	9 10 11 12 13 14 15
18	19 20 21 22 23 24	16 17 18 19 20 21 22
25	26 27 28 29 30	23 24 25 26 27 28 29
		30 31

7	8	9
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
	1 2 3	1 2 3 4
4	5 6 7 8 9 10	5 6 7 8 9 10 11
11	12 13 14 15 16 17	12 13 14 15 16 17 18
18	19 20 21 22 23 24	19 20 21 22 23 24 25
25	26 27 28 29 30 31	26 27 28 29 30

10	11	12
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
	1 2	1 2 3 4
3	4 5 6 7 8 9	5 6 7 8 9 10 11
10	11 12 13 14 15 16	12 13 14 15 16 17 18
17	18 19 20 21 22 23	19 20 21 22 23 24 25
24	25 26 27 28 29 30 31	26 27 28 29 30 31

2022	1	2	3
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
	1	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
2	3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12	6 7 8 9 10 11 12
9	10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19	13 14 15 16 17 18 19
16	17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26	20 21 22 23 24 25 26
23	24 25 26 27 28 29	27 28	27 28 29 30 31
30	31		

※その他の期間は休館日となります。
※イベント及び展示の内容等は都合により変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

12月4日④ → 2022年2月6日④
村上三郎展(仮称)

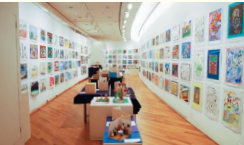


村上三郎《あらゆる風景》1956年 野外具体美術展(芦屋公園)

村上三郎(1925-1996)は、1955年に具体美術協会に入会、同年の第1回具体美術展で発表した、ハトロン紙を体当たりで突き破る「紙破り」は、パフォーマンス作品の先駆として世界的に知られます。後に激烈なアクション・ペインティングを制作していきますが、具体解散後は絵画から離れ、コンセプチュアルでパフォーマンスの要素をもつ作品を中心に発表しました。一方、55年頃から児童画教育に携わったほか、大学で教壇に立つなど、教育者としての顔もあわせ持ちます。本展では、没後25年の節目に、改めて村上の生涯をたどり、「村上三郎」という人物像にせまります。

写真提供：大阪中之島美術館

2022年2月12日④ → 2月20日④
第39回 芦屋市造形教育展



第37回 芦屋市造形教育展の様子 2020年

芦屋市内の幼稚園、小学校、中学校の子どもたちの作品を全館(歴史資料展示室を除く)にわたり展示します。
主催:芦屋市教育委員会
芦屋市造形教育研究会

2022年
3月13日④ → 11月21日④
芦屋の歴史と文化財



芦屋川水車絵図 江戸時代末期

芦屋市の歴史を古代・中世・近世・近代それぞれの時代の主要な歴史資料とともに紹介します。国遺跡指定10周年を迎えた会下山遺跡の資料や、2020年度に日本遺産に認定された[[「伊丹諸白」と「灘の生一本」]酒造り関連資料なども展示します。



シンガーミシン 大正時代

昔のくらしで使用していた道具を通して、生活様式の変化や歴史を学べる展示を行います。芦屋をはじめとした郷土の文化を語る資料や、地域特有の生活文化を紹介し、地域が育んできた生活の姿に触れることができる内容です。

2022年3月8日④ → 3月27日④
第66回 芦屋市展



第65回 芦屋市展講評会の様子 2019年(参考)

「何人も随意に応募することが出来ます」という自由さが特色の公募展として1948年に第1回展が開催されて以来、本展は今年で66回目となります。本年も多くの方々に親しみをもっていただける公募展をめざします。部門には平面(油彩画、水彩画、日本画、版画などを含む)部門と写真部門があり、芦屋市長賞、芦屋市議会議長賞、芦屋市立美術館奨励賞、審査員特別賞、寄託賞などが選ばれます。また前回に引き続き、会期中に来場者の投票で選ぶ賞も実施されます。
主催:芦屋市、芦屋市教育委員会、芦屋市立美術館

芦屋市立美術博物館は、1991年に芦屋市制施行50周年記念事業として開館いたしました。美術部門と歴史部門を併せた複合施設として、芦屋ゆかりの作家の作品を中心に内外の名品をご覧ください。また、芦屋の自然や歴史を実際に目で確かめ体験する学習の場として、皆様に親しまれる身近な文化施設となることを目指しています。

イベント情報
ART MARKET あしやつくるば

年に2回、当館のお庭で手作りマーケットやワークショップの出店者が集まります。“つくる”ことから生まれる喜びや発見を共有する2日間です。



アートスタディプログラム2021
Mana-Bihaku-Room / まなびはくルーム

美術家や専門家、学芸員と一緒に、美術の面白さ、楽しさ、難しさなどを発見していく講座やワークショップなどを開催します。

※詳細は当館HPでご案内します。



高橋耕平「個と風景の「造形」(ワークショップ、パフォーマンス、トーク)」2019

小出楯重アトリエ

芦屋ゆかりの洋画家・小出楯重のアトリエを復元し、愛用の画材やモチーフなどの遺品、資料を展示しています。美術博物館開館中はどなたも無料でご覧いただけます。



喫茶
Café de Repos カフェ・ド・ルポ

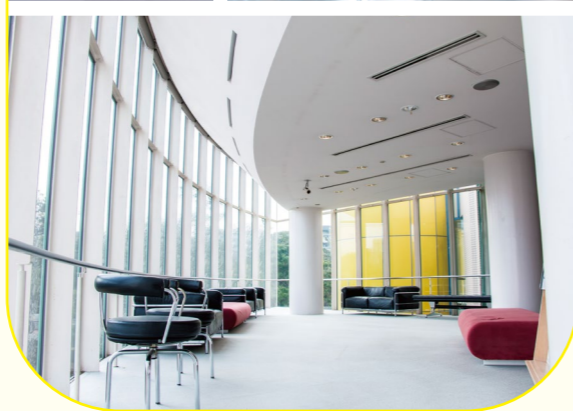
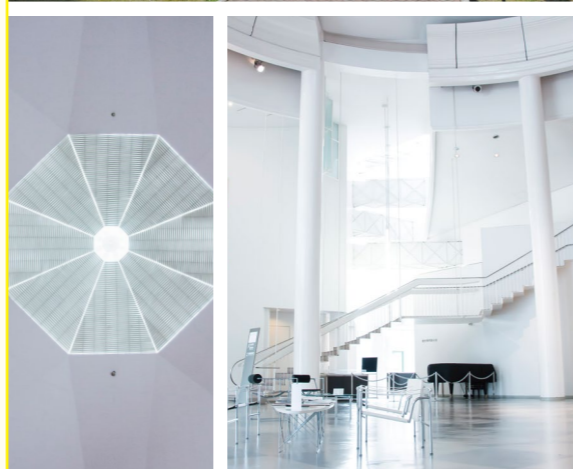
美術博物館の前庭に隣接する喫茶店。特別展に合わせて期間限定のデザートメニューもご用意しております。9:00～17:00まで。



文化ゾーン連携講座

芦屋市内の各館の学芸員が、それぞれの専門分野から、「芦屋」に関する事を中心に紹介する講座を開催します。

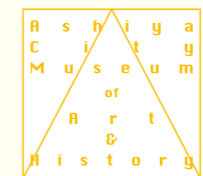
※詳細は随時当館HPでご案内します。



〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25
TEL: 0797-38-5432 FAX: 0797-38-5434
ashiya-museum.jp

Ashiya City Museum of Art & History

芦屋市立美術博物館
Exhibitions Schedule



2021.4
2022.3

ご利用案内

開館時間 | 10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 | 月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始、展示替え期間中

観覧料
一般 300(240)円 / 大高生 200(160)円 / 小中学生 無料
展覧会によって料金が異なる場合があります

※()内は20名以上の団体料金です。
※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちのかたとその介護のかたは各当日料金の半額になります。
※ご来館の際は、当館HPもご覧ください。

駐車場使用料(20台)
30分100円(8:00～20:00) / 60分100円(20:00～8:00)
※当館利用者は1時間無料

施設使用料

区分	10:00～12:00	13:00～16:30	10:00～16:30
講義室	2,850円	4,370円	7,230円
体験学習室	4,170円	6,820円	11,000円

交通のご案内

徒歩 → 阪神電車芦屋駅から南東へ約15分
阪急バス → 「新浜町」行きまたは「芦屋市総合公園前」行き乗車(31、32、35、36、131系統)、「緑町(美術博物館前)」停留所下車
バス乗り場 → 阪神電車芦屋駅から：南側2番のりば
JR芦屋駅から：北側5番のりば、阪急芦屋川駅から：南側5番のりば

